



## 2020年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年10月2日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社エスプール  
 コード番号 2471 URL <https://www.spool.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 浦上 壮平  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部担当 (氏名) 佐藤 英朗 TEL 03-6859-5599  
 四半期報告書提出予定日 2020年10月14日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年11月期第3四半期の連結業績（2019年12月1日～2020年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年11月期第3四半期	15,268	20.2	1,559	29.5	1,557	28.5	1,038	33.8
2019年11月期第3四半期	12,699	18.7	1,203	72.1	1,211	72.3	775	77.2

(注) 包括利益 2020年11月期第3四半期 1,042百万円 (34.4%) 2019年11月期第3四半期 775百万円 (77.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年11月期第3四半期	13.14	—
2019年11月期第3四半期	9.83	9.82

(注) 1. 当社は、2019年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。  
 2. 2020年11月期第3四半期の「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年11月期第3四半期	10,652	3,929	36.8	49.56
2019年11月期	8,659	3,035	35.1	38.42

(参考) 自己資本 2020年11月期第3四半期 3,915百万円 2019年11月期 3,035百万円

(注) 当社は、2019年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり純資産」を算定しております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年11月期	—	0.00	—	2.00	2.00
2020年11月期	—	0.00	—	—	—
2020年11月期（予想）	—	—	—	3.30	3.30

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
 2019年11月期期末配当金の内訳 普通配当 1円40銭 記念配当 0円60銭

### 3. 2020年11月期の連結業績予想（2019年12月1日～2020年11月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,636	17.8	2,000	24.7	1,988	22.3	1,288	19.0	16.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年11月期3Q	79,007,500株	2019年11月期	79,007,500株
② 期末自己株式数	2020年11月期3Q	3,855株	2019年11月期	3,855株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年11月期3Q	79,003,645株	2019年11月期3Q	78,952,228株

(注) 当社は、2019年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報) .....	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により個人消費や企業活動が停滞したことで、極めて厳しい状況で推移しており、経済活動に段階的な再開の動きが見受けられたものの、依然として先行きは不透明な状況となっています。

そのような中、当社グループは、領域の異なる事業を複数展開するポートフォリオ経営を推進してきたことにより、新型コロナウイルスの影響を上手く分散させることができました。主力の人材派遣サービスでは、新型コロナウイルスの影響は限定的にとどまり好調を継続したほか、セールスサポートサービスなど影響を受けた事業についても、第2四半期を底にして回復が進んでおります。また、ロジスティクスアウトソーシングサービスにおいては、巣ごもり消費の拡大が続いており、計画を上回る水準で推移することができました。一方、障がい者雇用支援サービスに関しては、新型コロナウイルスの感染が再拡大した影響により、営業活動や障がい者の教育訓練の遅れが続いており、農園の設備販売が計画を下回ることとなりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は15,268百万円（前年同四半期比20.2%増）、営業利益は1,559百万円（前年同四半期比29.5%増）、経常利益は1,557百万円（前年同四半期比28.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,038百万円（前年同四半期比33.8%増）となりました。

2020年11月期第3四半期連結累計期間 連結業績

(単位：百万円)	2019年11月期 第3四半期	2020年11月期 第3四半期	増減率
売上高	12,699	15,268	20.2%
営業損益	1,203	1,559	29.5%
経常損益	1,211	1,557	28.5%
親会社株主に帰属する 四半期純損益	775	1,038	33.8%

当第3四半期連結累計期間のセグメント経営成績（セグメント間内部取引消去前）は以下のとおりであります。

①ビジネスソリューション事業

[事業概要]

ビジネスソリューション事業では、シニアや障がい者など潜在労働力の活用を支援するサービスや、企業の業務の一部を受託するアウトソーシングサービスを提供しています。前者においては、株式会社エスプールプラスが、障がい者雇用を希望する企業に同社が運営する農園を貸し出し、主に知的障がい者を企業が直接雇用し、収穫した野菜を従業員の健康促進に役立てる福利厚生プログラムの提供を行っています。また、株式会社エスプールでは、様々な経験やノウハウを有するシニアを企業の経営課題や業務課題の解決に役立てるプロフェッショナル人材サービスを提供しています。

後者のアウトソーシングサービスでは、株式会社エスプールロジスティクスが、通販商品の発送を代行する物流サービスを提供しています。また、株式会社エスプールリンクでは、アルバイトやパートの求人応募の受付を代行する採用支援サービスを提供しており、株式会社エスプールセールスサポートでは、対面型の会員獲得業務や販売促進業務を行っています。

[当第3四半期連結累計期間の経営成績]

障がい者雇用支援サービスにおいては、営業活動や障がい者の教育訓練の遅れの影響により設備販売は計画を下回ったものの、ストック収入となる運営管理費の積み上げにより売上が着実に伸びました。採用支援サービスについては、飲食業の求人の回復は遅れているものの、スーパーマーケットやデリバリーサービスの応募受付が伸びており、大幅な増収となりました。損益面では、ロジスティクスアウトソーシングサービスや採用支援サービスが利益を伸ばす一方で、セールスサポートサービス、プロフェッショナル人材バンクサービスについては、足元の業績は徐々に回復しているものの、第2四半期の落ち込みが大きく、利益は前期を下回ることとなりまし

た。また、障がい者雇用支援サービスに関しても、設備販売が伸び悩んだことで第3四半期は若干の減益となりました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,054百万円（前年同四半期比12.8%増）、営業利益は1,025百万円（前年同四半期比1.7%減）となりました。

②人材ソリューション事業

[事業概要]

人材ソリューション事業は、人材派遣、人材紹介サービスを主力とする株式会社エスプールヒューマンソリューションズが提供するサービスで、コールセンターや事務センター等のオフィスサポート業務と、スマートフォンや家電製品等の店頭販売支援業務に関する人材サービスを展開しております。

[当第3四半期連結累計期間の経営成績]

主力のコールセンター業務においては、スポット案件を上手く取り込んだことにより、グループ型派遣が主要顧客を中心に大幅に増加しました。一方、販売支援業務については、人材需要の回復は鈍く業務の縮小が続きましたが、コールセンター業務拡大の効果が大きく、人材ソリューション事業全体では増収を達成しました。また、地域別では、集中的に支店展開をしている札幌、東京、博多、沖縄エリアが高い伸びを示しました。損益面では、売上増による利益増に加え、効率的な支店運営によって販売費及び一般管理費の増加をある程度抑制することができたことで、大幅な増益となりました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は11,261百万円（前年同四半期比23.3%増）、営業利益は1,334百万円（前年同四半期比42.9%増）となりました。

2020年11月期第3四半期連結累計期間 セグメント別業績

売上高（単位：百万円）	2019年11月期 第3四半期	2020年11月期 第3四半期	増減率
報告セグメント	12,727	15,316	20.3%
ビジネスソリューション事業	3,596	4,054	12.8%
人材ソリューション事業	9,131	11,261	23.3%
調整額	△27	△47	－%
合計	12,699	15,268	20.2%

営業利益（単位：百万円）	2019年11月期 第3四半期	2020年11月期 第3四半期	増減率
報告セグメント	1,976	2,360	19.4%
ビジネスソリューション事業	1,042	1,025	△1.7%
人材ソリューション事業	934	1,334	42.9%
調整額	△773	△801	－%
合計	1,203	1,559	29.5%

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末から518百万円増加し、5,552百万円となりました。新型コロナウイルスの影響による不測の事態に対応できるよう臨時的な借り入れを実施したため、現金及び預金が264百万円増加しております。また、人材ソリューション事業を中心とした継続的な売上の増加に伴い、売上債権が197百万円増加しております。

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末から1,474百万円増加し、5,099百万円となりました。障がい者雇用支援サービス拡大のため、株式会社エスプールプラスにて、新規農園の建設や既存農園の増設をしており、有形固定資産が1,401百万円増加しております。

②負債

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末から927百万円増加し、5,533百万円となりました。前述の新型コロナウイルスの影響への対策のため、短期借入金を1,200百万円借り増ししております。一方、納税により未払法人税等が175百万円減少しております。また、賞与の支払により賞与引当金が80百万円、事業所税等の支払等によって流動負債その他が84百万円減少しております。

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末から171百万円増加し、1,189百万円となりました。長期借入金の返済により64百万円減少し、農園の新規建設等により資産除去債務が123百万円、繰延税金負債が94百万円それぞれ増加しております。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益により1,038百万円増加し、一方、第20期期末配当により158百万円減少し、3,929百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社の業績は、利益面を中心に期初計画を上回り推移しておりますが、新型コロナウイルスの影響も含め、今後の景気動向等に伴う不確定要素があるため、2020年1月14日の「2019年11月期決算短信」で公表いたしました2020年11月期の連結業績予想は据え置いております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,119	2,383
受取手形及び売掛金	2,628	2,826
商品	6	76
その他	288	275
貸倒引当金	△8	△8
流動資産合計	5,034	5,552
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,702	3,839
その他(純額)	448	712
有形固定資産合計	3,151	4,552
無形固定資産	94	79
投資その他の資産		
繰延税金資産	61	13
その他	331	488
貸倒引当金	△13	△33
投資その他の資産合計	379	467
固定資産合計	3,625	5,099
資産合計	8,659	10,652
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	178	162
短期借入金	1,450	2,650
1年内返済予定の長期借入金	127	89
未払法人税等	416	241
未払費用	1,154	1,316
賞与引当金	131	51
役員賞与引当金	40	—
その他	1,107	1,023
流動負債合計	4,605	5,533
固定負債		
長期借入金	514	450
繰延税金負債	10	105
資産除去債務	463	587
その他	29	46
固定負債合計	1,018	1,189
負債合計	5,623	6,723
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	372	372
資本剰余金	222	222
利益剰余金	2,441	3,321
自己株式	△0	△0
株主資本合計	3,035	3,915
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	—	0
その他の包括利益累計額合計	—	0
非支配株主持分	—	13
純資産合計	3,035	3,929
負債純資産合計	8,659	10,652

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年8月31日)
売上高	12,699	15,268
売上原価	8,988	10,839
売上総利益	3,711	4,429
販売費及び一般管理費	2,507	2,870
営業利益	1,203	1,559
営業外収益		
受取利息	0	0
助成金収入	25	19
その他	0	4
営業外収益合計	26	24
営業外費用		
支払利息	8	14
支払手数料	0	12
貸倒引当金繰入額	9	—
その他	—	0
営業外費用合計	17	26
経常利益	1,211	1,557
特別利益		
固定資産売却益	0	2
負ののれん発生益	—	2
特別利益合計	0	5
特別損失		
固定資産除却損	3	25
リース解約損	—	3
関係会社株式評価損	0	—
特別損失合計	3	28
税金等調整前四半期純利益	1,208	1,533
法人税、住民税及び事業税	383	341
法人税等調整額	49	149
法人税等合計	432	491
四半期純利益	775	1,042
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	775	1,038



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年12月1日 至 2019年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年12月1日 至 2020年8月31日)
四半期純利益	775	1,042
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	—	0
その他の包括利益合計	—	0
四半期包括利益	775	1,042
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	775	1,038
非支配株主に係る四半期包括利益	—	4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年12月1日至2019年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	3,580	9,119	12,699	—	12,699
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	15	12	27	△27	—
計	3,596	9,131	12,727	△27	12,699
セグメント利益	1,042	934	1,976	△773	1,203

(注) 1. セグメント利益の調整額△773百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△773百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年12月1日至2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	4,033	11,234	15,268	—	15,268
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	20	26	47	△47	—
計	4,054	11,261	15,316	△47	15,268
セグメント利益	1,025	1,334	2,360	△801	1,559

(注) 1. セグメント利益の調整額△801百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△801百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。